

帝國議會貴族院議事速記錄第十四號

第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

二十一 實業教育費國庫補助法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會ノ續

二十二 移民保護法中改正法律案(政府提出衆
院回付) 會議

二十三 府縣制中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

二十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

二十五 郡制中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

二十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

二十七 市制中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

二十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

二十九 町村制中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

三十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

○議長(公爵近衛篤麿君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

昨日本院ニ於テ修正可決シタル左ノ政府提出案ハ即日衆議院へ回付シタリ
シタリ

同日本院ニ於テ修正可決シタル政府提出案ハ即日衆議院へ回付シタリ
水害地方田畠地租免除ニ關スル法律案
鉄道下年期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル法律案

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領シタリ

明治三十三年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)

北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設

明治三十三年度歲入歲出豫算追加案(特追第二號)

同日左ノ衆議院提出案ヲ受領シタリ

民法中改正法律案

所得稅法中改正法律案
同日議員子爵谷千城君ヨリ五十一名ノ賛成ヲ以テ憲法上ノ保障ニ關スル上

奏案ヲ提出セラレタリ

各特別委員會ニ於テ當選シタル委員長副委員長ノ氏名左ノ如シ

臺灣事業公債法中改正法律案外一件特別委員會

委員長 伯爵坊城俊章君 副委員長 子爵新莊直陳君

明治二十九年法律第四號中改正法律案(衆議院特別委員會同付)

ノ件(議院提出衆議院送付)

明治三十四年三月十九日(火曜日)	午前十時十八分開議	議事日程	第十五號	明治三十四年三月十九日	午前十時十八分開議
午前十時開議	午前十時十八分開議	午前十時開議	午前十時十八分開議	午前十時開議	午前十時開議
明治三十三年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)審查期 限ヲ定ムルノ件	明治三十三年度歲入歲出豫算追加案(特追第二號) 二號)審查期限ヲ定ムルノ件	明治三十三年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)審查期 限ヲ定ムルノ件	明治三十三年度歲入歲出豫算追加案(特追第二號) 二號)審查期限ヲ定ムルノ件	明治三十三年度歲入歲出豫算追加案(第二號)審查期 限ヲ定ムルノ件	明治三十三年度歲入歲出豫算追加案(第二號)審查期 限ヲ定ムルノ件
漁業法案(政府提出衆議院送付)	漁業法案(政府提出衆議院送付)	漁業法案(政府提出衆議院送付)	漁業法案(政府提出衆議院送付)	漁業法案(政府提出衆議院送付)	漁業法案(政府提出衆議院送付)
右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
印紙稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	印紙稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	印紙稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	印紙稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	印紙稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	印紙稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)
事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出衆議院送付)
第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第九 北海道會法案(政府提出衆議院送付)	第九 北海道會法案(政府提出衆議院送付)	第九 北海道會法案(政府提出衆議院送付)	第九 北海道會法案(政府提出衆議院送付)	第九 北海道會法案(政府提出衆議院送付)	第九 北海道會法案(政府提出衆議院送付)
第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十一 北海道地方費法案(政府提出衆議院送付)	第十一 北海道地方費法案(政府提出衆議院送付)	第十一 北海道地方費法案(政府提出衆議院送付)	第十一 北海道地方費法案(政府提出衆議院送付)	第十一 北海道地方費法案(政府提出衆議院送付)	第十一 北海道地方費法案(政府提出衆議院送付)
第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十三 除ニ關スル法律案(政府提出衆議院送付)	第十三 除ニ關スル法律案(政府提出衆議院送付)	第十三 除ニ關スル法律案(政府提出衆議院送付)	第十三 除ニ關スル法律案(政府提出衆議院送付)	第十三 除ニ關スル法律案(政府提出衆議院送付)	第十三 除ニ關斯ル法律案(政府提出衆議院送付)
第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)	第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆議院送付)
第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十七 北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設	第十七 北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設	第十七 北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設	第十七 北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設	第十七 北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設	第十七 北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設
第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十九 明治三十三年勅令二百七十七號承諾ヲ求ムル ノ件(政府提出衆議院送付)	第十九 明治三十三年勅令二百七十七號承諾ヲ求ムル ノ件(政府提出衆議院送付)	第十九 明治三十三年勅令二百七十七號承諾ヲ求ムル ノ件(政府提出衆議院送付)	第十九 明治三十三年勅令二百七十七號承諾ヲ求ムル ノ件(政府提出衆議院送付)	第十九 明治三十三年勅令二百七十七號承諾ヲ求ムル ノ件(政府提出衆議院送付)	第十九 明治三十三年勅令二百七十七號承諾ヲ求ムル ノ件(政府提出衆議院送付)

○委員長 伯爵德川達孝君 副委員長 三好退藏君 委員長 伯爵徳川達孝君 副委員長 三好退藏君

○村田保君 本員ハ少シ議長ニ要求ガゴザイマス、此議案ハ成程此會期モ

切迫シテ居リマスルカラ成規ノ時日ハ要シマセヌデゴザイマセウケレドモ、併ナガラ今日アタリ見マスルノニ、議事日程ハ本員ナドハ今朝初テ見ルヤウ

ナ譯デアリマスガ、此議事日程ニハ掲ゲテアリマスケレドモ、議案ガ本員ノ手ニ配ツテナイ、大方ドナタモ今日ノ議事日程ノ下ノ方ニ載ツテ居ル議案ハ御

手許ニ届イテ居ル方ハナイト思フ、今日初テ投書函デ見ルヤウナ譯デ少モ考

ヘル暇ガナイ、議事日程ノ方ガ先ニ出ル、幾ラ會期ガ切迫シテモ、我ヨハ少モ考ヘル暇ハアリマセヌカラ、ドウゾ今後ハ議事日程ニ上サレル前ニ我ヨニ

議案ヲ配ラレルヤウニ願ヒタイ

○議長(公爵近衛篤麿君) 成ルベクサウ云フ風ニ計フ積デアリマスガ、何分

會期切迫デアリマスシ、日程ノ編製上已ムヲ得ヌ場合モゴザイマスカラ、成ルベクサウハ致シマスガ……

○村田保君 議事日程ノ前ニ出來ルヤウナ都合ニ參リマセヌカ

○議長(公爵近衛篤麿君) 是ヨリ本日ノ日程ニ移リマス、第一、明治三十三

年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)審查期限ヲ定ムルノ件、第二、明治三十三

年度特別會計歲入歲出豫算追加案(特追第二號)審查期限ヲ定ムルノ件

○子爵谷干城君 唯今議題ニナツテ居リマス追加豫算二件デゴザイマスルガ、是ハ會期モ切迫シテ居リマスルカラ明日中ニ審査ヲシテ報告ヲシタイト存シマス、之ヲ諸君ニ御説致シマス

〔賛成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 谷子爵ノ動議ニ御異議ガナクバ其通ニ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 漁業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、チ

ヨツト諸君ニ御説リマスガ通牒文ハ儀式上必ズ讀ムコトニナツテ居リマスガ其手續ハ省略スルコトニ御異議ガナクバサウ致シマスガ……

〔異議ナシト呼フ者多シ〕

〔左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ微フ〕

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及付候也

明治三十四年三月十六日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

衆議院議長片岡健吉

漁業法

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權ヲ享有スル者ヲ謂フ

第二條 私有水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區畫シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

前項ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ヲ專用セムトスル場合ヲ除クノ外從來ノ慣行アルニ非サレハ之ヲ與ヘス

第五條 漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ漁業ノ種類ヲ限定シテ免許ヲ與フルコトヲ得

從來ノ慣行ニ因リ前條ノ免許ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ其ノ慣行ニ因リ漁場ノ區域及漁業ノ種類ヲ定メ之ヲ免許ス

第六條 漁業免許ノ期間ハ二十箇年以内トス但シ第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ免許期間ニ算入セス

免許期間ハ免許ヲ受ケタル者ノ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第七條 漁業權ハ相續、讓渡、共有貸付及抵當ノ目的ト爲スコトヲ得但シ地先水面専用ノ漁業權ヲ處分スルハ行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第八條 漁業權ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年間漁業ニ從事スル者ナキトキハ行政官廳ニ於テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得引續キ二箇年間休業シタルトキ亦同シ但シ行政官廳ノ認可ヲ受ケ休業シタルトキハ此ノ限ニ在ラ

第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ前項ノ期間ニ算入セス

第九條 行政官廳ハ水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業免許ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

漁業者ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條 漁場ノ區域又ハ方位ヲ標示スル爲標識ヲ建設セムトスル者ハ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第十二條 第十條ニ依リ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルカ爲生シタル損失ハ其ノ請求ニ依リ之ヲ補償スヘシ

第十三條 地方長官ハ水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一 水產動植物ノ採捕若ハ販賣ニ關スル制限又ハ禁止

一 漁具、漁船若ハ採捕ノ方法ニ關スル制限又ハ禁止

一 漁業者ノ數又ハ其ノ資格ノ制限

一 水產動植物ニ有害ナル物質ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ命令ニハ漁具及漁獲物ノ沒收ニ關スル罰則ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ一
定ノ區域内ニ於ケル工作物設置ノ制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第十五條 前條第二項ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ノ所有者ニ對シ相當ノ金額ヲ補償スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

第十六條 行政官廳ハ水產動植物ノ蕃殖保護ニ必要アリト認ムルトキハ公有水面ニ通スル私有水面ニ前三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 漁業ニ從事スル雇人及雇主ノ取締ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

第十八條 一定ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業組合ヲ設置スルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ濱、浦、漁村其ノ他漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

前項ノ區域ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準スヘキ區域内ニ於テ其ノ地區ヲ定ムルコトヲ得

第十九條 漁業組合ハ漁業權ノ享有及行使ニ付權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ自ラ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ専用ノ免許ヲ受ケタルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ漁業ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 漁業組合ノ設置、管理及監督ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十二條 漁業者又ハ水產動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水產業ノ改良發達及水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他水產業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水產組合ヲ設置スルコトヲ得

水產組合ニ關シテハ重要物產同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ主務大臣之ヲ行フ

第二十三條 漁業免許若ハ其ノ更新ヲ拒否セラレタル者又ハ第八條、第九條若ハ第十四條第二項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ處分ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 漁業免許ノ許可若ハ其ノ更新ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 第十二條ノ補償金額ニ付當事者ノ協議調ハサルトキハ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十六條 前條ノ裁決ノ申請者若ハ争議ノ相手方裁決ニ不服ナルトキ又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前條ノ裁決又ハ第十五條ノ處分ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキ

ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第二十七條 漁場ノ區域漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭

アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリトスル申請者又ハ爭議ノ相手方

ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十八條 免許ニ依ラスシテ免許ヲ受クヘキ漁業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス免許ノ停止中又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違背シテ漁業ヲ爲シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ漁獲物及何人ノ所有ヲ問ハス漁具ヲ沒收ス但シ沒收スヘキ漁獲物ヲ既ニ譲渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第二十九條 使用人、漁夫其ノ他ノ從業者ノ所爲ハ漁業者ノ所爲ト看做シ前項ノ罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス

第三十條 第三條第四條ノ權利ヲ侵害シタル者ハ被害者ノ告訴ニ因リ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 漁場ノ標識ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ

第三十二條 明治三十三年法律第五十二號ノ規程ハ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ適用ス

附 則
第三十三條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十四條 本法ノ規定ハ臘虎臘肭獸獵法ノ效力ヲ妨ケス
第三十五條 本法施行前ニ受ケタル漁業ノ免許又ハ公有水面使用免許ニ依ル第三條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ免許期間ハ第六條ノ期間内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

第三十六條 従來ノ慣行ニ因ル第三條又ハ第四條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スルトキハ之ニ免許ヲ與フヘシ
前項ノ漁業者ハ其ノ免許ヲ出願シタル者ニ在リテハ許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間其ノ他ニ在リテハ本法施行後一箇年間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 本法施行前ニ於テ水產業ノ改良發達及水產動植物ノ蕃殖保護

其ノ他水產業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ抵觸セサルモ

ノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル水產組合ト看做

〔政府委員藤田四郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(藤田四郎君) 漁業法案本日此議題ニ上ボリマシテゴザンスルガ、是ハモウ其必要ハ申スマデモゴザイマセヌ、既ニ兩回程當貴族院ニ於キマシテ通過サレマシタ所ノ案デゴザイマス、今回ハ衆議院ニ於キマシテ議員ノ方カラ提出案ガゴザイマシタノデ共ニ議セラル、コトノ便宜ヲ圖リマシテ衆議院ノ方ヘ先ニ提出シマシタノデゴザイマス、衆議院ニ於キマシテ幾分ノ修正モゴザイマシタガ、大體ニ於キマシテハ政府ハ同意ヲ致シテ居リマスルノデゴザイマス、尙ホ其中ノ廉ニニ附イテハ又委員會ニ於キマシテ詳細陳述致シマスルデゴザイマスカラ、成ルベク本年ニ於キマシテ此漁業法案ノ通過スルヤウニ御盡力アランコトヲ希望致シマス

○馬屋原彰君 政府委員ニ質問ヲ致シマス、此漁業法案ハ前會期ニ政府ヨリ提出サレマシタ案ト大體ニ於キマシテハ餘り變リハナイヤウデゴザイマスガ、此度ノ法案ノ第二十六條ニ於キマシテ少シ御尋ヲ致シテ置キタイト考へマス、此二十六條ノ行政訴訟ヲ許シテ居ル事柄ノ中デ此第十五條ノ處分ヲ受ケタル者マデモ行政訴訟ヲ許スコトニナツテ居リマスルガ、是ハ前會期ニ提出サレタトキハ普通裁判所ニ起訴スルコトニナツテ居ツタカト考ヘマスルガ、本員等ノ考ヘマスル所デ見ルト性質上矢張前會期ニ提出サレタ方ガ當然デアツテ今回ノ如キ行政訴訟ノ中ニ之ヲ入レルト云フ考デアリマスカ、其點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(藤田四郎君) 是ハ昨年ノ案デゴザイマシテハ普通裁判所ヘ參ルヤウニ相成ツテ居リマシテゴザンスルガ、政府ハ此度此行政訴訟裁決ニ附キマシテノ大體ノ調査ヲセラレマシテゴザイマス、法典調査會ニ於キマシテ……其趣意ニ依リマシテハ皆斯ウ云フコトハ行政裁決ニ付スルト云フ方針ニ相成リマシタノデス、固ヨリ第二十六條ニ據リマシテ行政訴訟ヲ許シマスノハ違法處分ノモノダクト御了解ヲ下サルヤウニ願ヒマス

○馬屋原彰君 モウ一つ伺ヒタウゴザイマスルガ、唯今ノ御答辯ハ少シ聽取リ兼ネマスデゴザイマスガ、矢張是ハ行政訴訟ニシテ宜シイト云フ政府ノ御

趣意デアリマスカ

○政府委員(藤田四郎君) 左様デス、全ク宜シイト云フ考デアリマス

ル組合ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ抵觸セサルモ

ノ通行行政裁判法デハ損害要價ノ訴ヲ受理セヌト云フコトニ 現行法デハナツテ
居リマスルガ、是ニモ提起シテ構ハヌト云フ御趣意デアリマスルカ、其點ヲ
伺ヒタイ、ソレカラモウ一箇條序ニ御尋致シマスルガ、此衆議院ノ修正ハ先
刻御説明デ見レバ同意シテ居ルト云フコトデアリマスルガ、衆議院ノ修正デ
ハ此出訴ノ場合ニ於キマシテ違法ト云フコトハ悉ク削ッテアリマス、此違法
ト云フコトヲ削ッテ置イタノハドウ云フ理由デアリマスカ、是ハ御承知ノ如
ク違法處分ト云フモノデ初テ行政裁判所デ受理スルノデアリマス、違法處分
デナカツタラバ持出シタ所ガ裁判ヲ與ヘヌコトニナツテ居ル、是ハ憲法ノ精神
竝ニ明治三十三年ノ百六號デアリマシタカ悉ク違法處分デナケラ子バ出ラレ
ヌコトニナツテ居ル、然ルニ此度ハ此違法ト云フコトヲ削ラレタ以上ハドン
ナ事柄デモ、即チ行政權デ認定シタ事柄マデモ皆訴訟ヲ許シテ行クト云フ趣
意デアリマスカ、餘程範圍ヲ廣クセラレタヤウニ考ヘラレマスガ、政府ノ之
ニ御同意ニナツタノハドウ云フ御考デアリマスカ、其點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(藤田四郎君) 第十五條、第二十六條ノ損害ノコトデアリマスガ、
此損害ハ無論普通裁判所ヘ行キマスガ、處分ニ就キマシテノ工事ノ中止等ヲ
命ジマシタ場合ノ違法處分ヲ申シマシタノデ、此二十六條ノ違法ト云フ字ヲ
削リマシタコトデゴザイマスガ、是ハ政府ニ於キマシテハ矢張昨年貴族院ニ
於カレテ違法ト云フ字ヲ特ニ入レラレテ其方ガ宜シイト云フ考ヲ以テ、衆議
院ニ於キマシテモ委員會デ詳細陳述致シテ置キマシテゴザイマス、本會議デ
ハ強テ申シマセヌデゴザイマシタガ、私ガ前刻申上ゲマシタル通、大體ニ於
キマシテハ衆議院ノ修正ニ同意致シテ居ルト申シマシタノデ、其詳細ノ事柄
ハ又委員會モゴザンスルカラ其委員會ノ時ニ申上ゲマセウト申シマシタノデ
ゴザイマス、此違法ト云フ字ヲ衆議院デ削リマシタ趣意ハ詰リ昨年一昨年出
マシタル他ノ法律ニ違法ト云フ字ヲ載セズニ置イタ場合モアルカラ、茲ニ違
法ト云フ字ヲ入レテ其範圍ヲ窮屈ニスルニハ及バヌト云フ議論ノヤウデゴザ
イマシタ、是ハ固ヨリ憲法ノ規定モゴザンスルシ、又行政裁判ノ法律モゴザ
ンスルコトゴザイマシテ、違法ト云フ字ノアル方ガ適當ト農商務省デハ信
ジテ居リマスカラ左様ニ御承知ヲ願ヒマス

○男爵船越衛君 チヨツト御尋シマス、此七條ハ衆議院デ修正ニナツテ居リマ
スガ、其修正ニ「共有、貸付及抵當ノ目的ト爲スコトヲ得」抵當ノ目的ト爲ス
コトヲ得ト云フノハドウ云フ趣意デアリマスカ、抵當ニシテモ宜イト云フ趣
意デゴザイマスカ

○政府委員(藤田四郎君) 此「抵當」ト云フコトガ衆議院ノ案デ這入リマシテ
ゴザイマスルガ、政府ノ見マスル所デハ抵當ト云フモノハ此様ナモノニハ許
スベキモノデハナイト云フ考ヲ持ッテ居リマス、ソレデ其事モ詳細ニ衆議院デ
ハ陳辭ヲ致シマシテゴザイマス、抵當ハ斯ウ云フ漁業ノ免許ニ依ッテ得マシタ
所ノモノニ附キマシテ、即チ是ハ受クベキモノデハナイト云フ考デス、即チ
抵當ニスルコトハ許スベキモノデナイト云フ考ヲ持ッテ居ル

○男爵船越衛君 ソコデ此修正ニハ御同意ニナリマシタカ、御同意ニナツタカ
○政府委員(藤田四郎君) ソレハ能ク委員會デ御相談ヲ致シマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 他ニ御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、議長
指名デ御異議ハゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 他ニ御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、議長
指名デ御異議ハゴザイマセヌカ
○政府委員(藤田四郎君) ソレハ能ク委員會デ御相談ヲ致シマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 他ニ御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、議長
指名デ御異議ハゴザイマセヌカ
○印紙稅法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十四年三月十六日 貴族院議長公爵近衛篤麿殿
衆議院議長片岡健吉

第四條中委任狀ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

一 爲替手形 印紙稅 二錢

一 約束手形 印紙稅 二錢

第六條中「爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、倉荷
質入證券、保險證券、株券、債券ハ」ヲ削ル

〔政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(目賀田種太郎君) 此法案ハ理由書ニ具ニシテゴザイマス通至ツ
テ簡單ナコトゴザイマスガ、全ク商取引上ノ便益ヲ圖リ且ツ押印ノ場合ヲ
増シマシタノデ之ガ便益ヲ圖ツタニ外ナラヌ、斯クナリマシタ所ガ稅額ノ上デ
減ズルモノハ至ツテ僅少デゴザイマシテ、僅ニ二万四千程ノ減額ニ止リマス、
却ツテ此改正ヲ實際ノ上ニ於テハ便トスル所デゴザイマス、何分ノ御協賛

アリマセヌカ

○議長（公爵近衛篤麿君）別ニ御質問ガナケレバ委員ノ選舉ニ移リマス、此委員モ議長指名デ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○公爵德川家達君 是ヨリ東京都制法案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ退席ノ御許ヲ受ケタウゴザイマス

○議長（公爵近衛篤麿君）宜シウゴザイマス、事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候

明治三十四年三月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

事業公債及鐵道公債特別會計法中左ノ通改正ス

但シ償金特別會計資金ノ一時繰替金ヲ返償スル場合ニハ直ニ償金特別會

計ノ資金ニ繰入シ又臺灣事業公債法第五條ニ依ル一時借入金ヲ償還スル場合ニハ直ニ臺灣銀行ニ仕拂フヘシ

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員（阪谷芳郎君）是ハ極テ簡單ナ法律案デゴザイマシテ、唯今ノ特

別會計法中第二條ノ但書ノ前段ノ方ハ既ニ現行法ト爲ツテ居リマス、ソレヘ「又」以下ヲ此度加ヘマス、其理由ハ臺灣事業公債ノ募集ニナリマセヌ前ニハ一時臺灣銀行カラ借リテ置キマスノデ、サウシテ或ル金額ニ達シマシタ時ニ此事業公債ヲ募集致シマシテ、臺灣銀行ノ方ヘ返シマス、其返シマス場合ノ整理法ト云フモノガ今日デハ少シ繁雜ニナツテ居リマス、一旦一般會計ヘ入レテカラ返シマスカラ、ソレヲ今度ハ一般會計ト同ジ計算ヲスルコトニ致スヤウニナリマス、ソレ故ニ此度ノ改正ハ單ニ特別會計ノ方デ直チニ臺灣銀行ノ方ヘ返スヤウニ改メタイト申スノデゴザイマス

○議長（公爵近衛篤麿君）委員ノ選舉ニ移リマス、是モ議長指名デ御異議ハ

○議長（公爵近衛篤麿君）北海道會法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

北海道會法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候

明治三十四年三月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

北海道會法

第一條 北海道會ハ各選舉區ヨリ選舉スル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

選舉區、議員定數及各選舉區ヨリ選出スヘキ議員ノ數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 北海道會議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ三年トス

第三條 議員中定員三分ノ一以上闕員アルトキハ二箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

闕員定員ノ三分ノ一以下ノ場合ト雖内務大臣又ハ北海道廳長官ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間を任ス

第四條 帝國臣民タル男子年齢滿二十五年以上ニシテ北海道内ニ三年以來住所ヲ有シ且北海道内ニ於テ三年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者若ハ北海道内ニ於テ三年以來土地四町歩以上所有スル者ハ北海道會議員ノ選舉權ヲ有ス

帝國臣民タル男子年齡滿二十五年以上ニシテ北海道内ニ三年以來住所ヲ有シ且北海道内ニ於テ三年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者若ハ北海道内ニ於テ三年以來土地十五町步以上ヲ所有スル者ハ北海道會議員ノ被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ因リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

家督相續ニ因リ土地ヲ取得シタルトキハ被相續人ノ所有シタル期間ヲ相續人ノ所有シタル期間ニ通算ス

土地所有ノ期間ハ所有權ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ起算ス

本條ニ於テ土地ト稱スルハ耕地、宅地及海產干場ヲ謂フ

第五條 左ニ掲タル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 禁治產者及準禁治產者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破產ノ

宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三 剥奪公權者及停止公權者

四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄ノ者

五 租稅滯納處分中ノ者

六 公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年ヲ經サル者

第六條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者又

ハ官立公立私立學校ノ學生生徒亦前條ニ同シ

第七條 左ニ掲タル者ハ北海道會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタ

ル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 北海道廳ノ官吏

二 檢事、警察官吏及收稅官吏

三 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ

受クヘシ

選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

北海道廳ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ北海道廳ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ北

海道會議員ノ被選舉權ヲ有セス

北海道會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 北海道會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被

選舉權ノ有無ハ北海道廳長官之ヲ決定シ及之ヲ告示ス

前項北海道廳長官ノ決定ヲ違法ナリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

北海道會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アル迄

ハ其ノ職ヲ失ハス

第九條 北海道會議員ノ選舉ニ關シ本法ニ規定ナキ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 北海道會ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノノ外北海道地方費ノ歲入出豫算及北海道地方稅ノ課目課率ヲ議決ス

北海道地方費ノ決算ハ年度終了後第二次ノ通常會ニ報告スヘシ

第十一條 北海道廳長官ハ北海道會ノ議決ニ付スヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ

發ス

第十二條 北海道會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ北海道廳長官ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ北海道會ニ報告スヘシ

第十三條 北海道會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ北海道廳長官ニ於テ之ヲ專決處分スルコトヲ得

第十四條 府縣制第四十條、第四十四條乃至第六十四條、第八十二條乃至第八十五條、第九十四條、第九十六條、第一百二十八條及第一百三十一條ノ規定ハ之ヲ本法ニ準用ス但シ其ノ規定中府縣參事會ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

第十五條 本法ニ定ムル直接國稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第十六條 島嶼ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キモノハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設タルコトヲ得

附 則

第十七條 本法ハ明治二十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 本法施行後三箇年間ハ第四條第一項及第二項ノ要件中納稅及土地所有ニ關スル三年ノ制限ハ之ヲ一年トス

第十九條 本法施行ノ際北海道會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間北海道廳長官之ヲ行フ

〔政府委員男爵園田安賢君演壇ニ登ル〕

○政府委員(男爵園田安賢君) 本案ハ豫算ノ計畫ト牽連シテ居ル議案デゴザリマスカラ、概括シテ一緒ニ御話ヲ致シタイト考ヘマス、又併セマシテ北海道ノ拓殖上ノ事情ヲモ一通り御話シ申上ゲル方ガ御分リ易カラウト考ヘマスルカラ左様ニ御承知ヲ願ヒマス、北海道ノ面積ハ御承知ノ通六千九十五方里デゴザイマス、之ヲ比較的ニ申シマスレバ四國、九州、臺灣ヲ合シマシタヨリ尙ホ少シク大ナル方デゴザイマス、拓殖上ノコトハ開拓使設置以來深ク經營致シマシテ諸般ノ經費ハ既ニ六千六百有餘萬ヲ消費シテ居リマス、少額デハゴザイマセヌガ、併ナガラ彼ノ沃饒富源ナ六千方里ノ無人ノ境ヲ開發致シテ

人間社會ニ爲スタメノ經費ト致シテハ、未ダ敢テ多額ナリトハ思ヒマセヌ、故ニ拓殖上ノコトハ未ダ其目的ノ半バニ達シテ居リマセヌ、交通機關ハ實ニ拓殖上ノ基礎デゴザイマスルガ、既ニ設備致シタル所ノモノヲ御話致シマスレバ鐵道ガ幹枝線ヲ合シマシテ、僅ニ三百二十七哩デゴザイマス、道路ガ國縣里道市街道及排水道路ヲ合シマシテ僅々一千三百有餘里デゴザイマス、其他函館及小樽ノ築港ヲ致シマシタルダケデゴザイマシテ、御承知ノ通鐵道ハ三十年度ヨリ繼續事業ト致シマシテ、年々進行シツ、ゴザイマスルガ、是ニ伴フベキ道路及排水ガ繼續事業ニナツテ居リマセヌカラ鐵道ヲヤル道ガナイ、排水ガ出來テ居ラナイタメニ立派ナ土地ヲ開拓スルコトモ出來ヌ有様デ、爲ニ移住民ハ非常ナル困難ナル有様デゴザイマスル、場所ニ依リマシテハ日用品ノ運搬サヘ容易ナラズ、極端カラ申シマスルト殆ド熊筐ノ中ニ拋リ込マレテ居ルト云フ有様デゴザイマス、是等ノ移住民ハ申スマデモナク己ガ住ミ慣レタル所ノ故郷ヲ跡ニ致シテ彼ノ寒氣凜烈膚ヲ裂クガ如キ所ノ北海道ノ寒中ニ身ヲ投ジテ刻苦艱難致シテ生産的ノ事業ニ從事スル所ノ實ニ國家ノ良民デアルノデアリマス、然ルニ是マデノ有様ハ唯今申上ゲル通私ハ此有様ヲ目擊致シマシテ非常ナ感覺ヲ生ジタノデゴザリマスル、御承知ノ通我國ノ有様ハ人口ハ面積ニ充滿致シマシテ、加フルニ年々四十萬以上ノ人口ガ增加シテ居リマス、從シテ人力車夫ノ如キ不生産的ノ營業ガ年一年非常ニ増加シテ居ルノデゴザイマス、此趨勢ニ放任致シテ置キマシタナラバ、將來如何ナル不都合ニ陷ルデアラウカト云フコトハ心アル者ノ大ニ憂慮シテ居ル所デアラウト信ジマス、眼ヲ轉ジテ諸外國ノ有様ヲ見聞致シマスルニ、悉ク自國前途ノ生存上ノコトヲ憂慮致シテ年々增加スル所ノ人民ヲ如何ニシテモ永遠安固ニ生活ヲ爲シメヤウト云フ心配カラ阿非利加ノ熱帶地方マデ銳意開發ニ力ヲ致シテ移住民ヲ送ツテ居リマス、是等ノコトヲ比較シテ見マスレバ北海道ノ拓殖上ノ有様ハ雲泥モ啻ナラヌ次第デアラウト思ヒマス、今日マデ彼ノ國家生存上ニ最モ必要ナル所ノ拓殖事業ガ斯ノ如キ有様デゴザイマシタノハ、私ノ信ジマスル所デハ從來政府ヲ始メ民間人士ニ於キマシテモ、北海道ノ事情ヲ明ニシタル人ガ少イ故デアラウト思ヒマスル、然ルニ近年ハ追々北海道ノ事情ハ内地ニ汎ク紹介サレマシタ見エテ、近來移住民ノ増加ヲ始メ諸般ノ進歩發達ハ誠ニ著シキ有様デゴザイマスル故ニ、從來ノ經費デハ拓殖上相當ノ設備ヲ爲スコトガ出來ヌ事情ニナツテ居リマスル、又地方行政ノ有様ハ如何ト申シマスルニ、是レ亦人口ニ增加ニ伴ヒマシテ、年々町村役場ノ增設ヲ始メ教育費、

警察費、道路ノ修繕費等ニ多額ノ増加ヲ要スルコトニナツテ居リマス、此處四箇年バカリノ平均ヲ見マスルニ、年々十三萬圓ノ増加ヲ致シテ居リマスル、三十三年度ノ地方行政費ヲ申シマスレバ、九十七萬圓デゴザイマスルガ今日ノ趨勢ニシテ將來モ尙ホ十三萬圓ツ、ヲ增加致スモノト致シマスレバ、此處十年ノ後即チ四十三年度ニ至ツテハ二百二十萬圓ノ年額ヲ要スル譯ニナツテ居リマス、如何ニ節シ得ベキ所ノ經費ヲ節減致シマシテモ、二百萬圓ハ必ず要スル見込デアリマス、其十箇年ノ累計ハ實ニ一千六百八十萬圓ノ巨額ニ達シマシテ、之ヲ三十三年度ノ九十七萬圓ノ累計九百七十萬圓ニ比較シマスルノニ、實ニ七百十萬圓ノ増加デゴザイマシテ、其増額ハ今日ノ制度ヲ以テ致シマスレバ即チ人口增加ニ伴フ所ノ自然ノ結果デゴザイマスカラ、如何ニシテモ國庫ノ負擔ハ免レヌ譯デゴザイマス、又拓殖上ノ有様ハ右申上ゲマスル通常道路、排水、橋梁及港灣ノ修築、航海ノ補助等最モ痛切ナル事業ニ經費ヲ要スルコトニナツテ居リマスルガ、然ルニ今日財政困難ノ場合、地方行政費モ拓殖モ相當ノ増加ヲ求ムルト云フコトハ甚ダ至難ナコトデアラウト信ジマスル、然ルニ北海道ハ既ニ人口モ百萬ニ達シマシテ、サウシテ二十一箇所ノ市町村ヲ内地同様、自治制モ施行サレテ居リマス、又御承知ノ通衆議院議員モ選出サル、コトニナツテ居リマスル、且ソ移住民ハ内地自治制度ノ下ニ棲息シタル所ノ人民デゴザイマスルカラ、進歩ノ度合ハ決シテ内地ニ後レテ居ラヌト信ジマスル、故ニ地方制度ヲ設ケマシテ地方行政費ハ北海道民ニ於テ之ヲ負擔スルコトニ致シタナラバソレダケ國庫ノ負擔ヲ減ズル譯デゴザイマスカラ、其減ジタ額ニ多少ノ増額ヲシマシテ拓殖費ヲ求メマシタナラバ地方行政、拓殖行政ニツナガラ革新スルコトガ出來ヤウト信ジマシテ此案ヲ提出致シタル譯デゴザイマスル、尙ホ御参考ノタメニ申上ゲタイト思ヒマスノハ、御承知ノ通北海道ノ歲入ハ舉ゲテ之ヲ國庫ニ納メマシテ、サウシテ支出ハ一割ノ如キハ即チ同一物件ニ對シテ之ヲ課シテ居リマス、既ニ舉ゲテ國庫ニ納ムル以上ハ課稅ノ種類及稅率ヲ均ニ致シ賦課方法ヲ同ウセザルベカラザル譯デゴザイマスルガ、然ルニ水產稅ノ如キハ單リ北海道ニノミ之ヲ賦課シ、根本的國稅タル性質ヲ有セザルモノヲ含ムノミナラズ、土地ニ對スル地租地租割ノ如キハ即チ同一物件ニ對シテ之ヲ課シテ居リマス、又地方ニ依リマシテ其賦課方法ヲ異ニスルタメニ甚ダ錯雜不整ナルコトニナツテ居リマスル、是等ノコトヲ申シマスレバ北海道ハ立憲治下ノ有様デナインデアリマス、之ヲ改

正ヲ爲サマルベカラザルコトハ論ヲ俟タナイコト、考ヘマスガ、本案ヲ御協賛ヲ下サレマスレバ從ツテ是等モ改正サル、譯デゴザイマス、之ヲ概括シテ申シマスレバ拓殖費ハ拓殖上最モ必要ナル道路橋梁及排水ノ事業ヲ繼續事業ニ致シマシテモ經費ヲ年百九十三萬圓求メマシテ拓殖ノ進歩ヲ圖リタイ、及地方經濟ヲ分立致シマシテ其基礎ヲ立テタイ、及錯雜不整ナル所ノ稅法ヲ改正致シマシテ立憲治下相當ノコトニ致シタイ、此三點デゴザイマスルカラ何卒御協賛アランコト希望致シマス

○議長（公爵近衛篤麿君） 委員選舉ニ移リマス、是モ議長指名ノ委員デ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○議長（公爵近衛篤麿君） 北海道地方費法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十四年三月十六日 衆議院議長片岡健吉

北海道地方費法

第一條 北海道地方費ハ北海道地方稅其ノ他地方費ニ屬スル收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條 北海道地方稅ノ稅目ハ左ニ掲クルモノノ外府縣稅ニ關スル規定ヲ準用ス

一 反別割

二 水產稅

第三條 反別割ハ地租附加稅ヲ賦課セサル土地ノ所有者ニ之ヲ賦課ス但シ其ノ土地ノ民有ニ歸シタル年ノ翌年ヨリ二年間及屯田兵土地給與規則ニ依リ給與シタル土地ニ對シテハ現役中之ヲ賦課セス

第四條 水產稅ハ水產物ノ採取又ハ製造ヲ營業ト爲ス者ニ之ヲ賦課ス

第五條 地租二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 戸數割ハ北海道移住民ニシテ主トシテ耕作又ハ牧畜ノ事業ニ引續キ從事シ移住ノ日ヨリ三年ヲ經過セサル者ニハ之ヲ賦課セス

第七條 勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノノ外北海道地方稅ノ賦課徵收ニ關スル事項ニ付テハ府縣稅ニ關スル規定ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣參事會ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村又ハ市町村會トアルハ區町村又ハ區町村會及之ニ準スヘキモノニ該當ス

第八條 法律勅令ニ規定アルモノノ外北海道地方費ヲ以テ支辨スヘキ費用左ノ如シ

一 警察費

一 警察廳舍建築修繕費

一 土木費

一 衛生及病院費

一 教育費

一 諸達書及揭示諸費

一 勸業費

一二級町村長書記給料旅費

一 戶長役場費及戶長以下給料旅費及諸給與

一 北海道廳舍建築修繕費

一 北海道會議員選舉費

一 補助費

一 地方稅取扱費

一 豫備費

前項ノ外費目ノ增加ヲ要スルトキハ北海道廳長官ハ北海道會ノ議決ヲ經

内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 北海道ニ施行シタル從前ノ法律中府縣ノ負擔、收入及國庫補助ニ關スル規定ハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス

第十條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外北海道地方費ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 本法ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

付託スルト云フコトデ御異議ハアリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者多シ

勅令第二百七十七號

○議長（公爵近衛篤麿君）北海道鐵道部支部局及派出工場現金前渡官吏設置ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

北海道鐵道部支局及派出工場現金前渡官吏設置

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十四年三月十八日

貴族院議長公爵近衛篤磨殿

北清達鐵道部ノ支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲ爲ノ經任シテ仕拂ヲ爲サシムル爲現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

〔政府委員白仁武君演壇二登凡〕

○政府委員(白仁武君) 北海道ノ官設鐵道ハ段々線路カ延ビマシテ最早今田
デハ百五十餘哩ノ運輸ヲ致スコトニナリマンタ、從ツテ各停車場或ハ工場等

ニ於キマシテ未ダ特別會計法ヲ實施致
手數ヲ省クノ必要ガ起ツテ來マシタ、デ此事ハ全體遞信省所管ノ官設鐵道ニ
於キマシテ特別會計法ヲ實施致シテ居リマスルカラ是ハ前金渡ノ便法ガ開ケ
テ居リマス、然ルニ北海道ノ官設鐵道ニ於キマシテ未ダ特別會計法ヲ實施致
シマセヌニ據ツテ會計法ノ束縛ヲ受ケテ此現金前渡ガ出來マセヌデゴザイマ
ス、ソレ故會計法ノ除外例ヲ作リマスルタメニ此法案ヲ提出致シタ譯デゴザ

イマス

○議長（公爵近衛篤麿君） 委員選舉ニ移リマス、是モ議長指名デ御異議ハゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長（公爵近衛篤麿君）明治三十三年勅令第二百七十七號承諾ヲ求ムルノ件、政府提出、衆議院送付、會議

明治三十三年勅令第二百七十七號

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十四年三月十六日

貴族院議事速記錄第十四號

明治三十四年三月十九日

北海道鐵道部支部局及派出工場現金前渡官吏設置ニ關スル法律案
明治三十三年勅令第二百七十七號承諾ヲ求ムルノ件 會議 第一讀會

一九三

カナイ、我ゝガ議シタモノデモ、ナアニソレハ片方デ何スレバ無效ニシテ宜イト云フコトハ實ニ議院ヲ輕蔑スルモノダラウト思フ、一向我ゝノ議ト云フモノヲ尊重サレナイ、片方ハイケナイト言ヒ片方ハモウソレハ無效ニシテ大事ナイト云フ、甚ダ議院ニ向ツテ言フベキコトデナイト思フ、ソレデ我ゝハ實ハ之ニ附イテハマダ段々考ヘテ見タイコトガゴザイマスカラ、今日ハドウゾ此議ヲバ尙ホ延會致シタイト存ジマス、ドウゾ諸君御賛成ヲ願ヒマス

○子爵錦織教久君 賛成

○侯爵黒田長成君 賛成

○子爵小笠原壽長君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）此案ノ會議ヲ延期スルト云フ 動議ガアツテ段々賛成ガアリマス、御異議ガナクバ其通ニ致シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○議長（公爵近衛篤麿君）次ニ移民保護法中改正法律案、政府提出、衆議院回付、會議

移民保護法中改正法律案

右貴院ノ送付ニ係ル政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ及回付候也

明治三十四年三月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

〔衆議院ノ修正ニ係ル部分ノミヲ掲ク〕

第七條ヲ第七條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民ニ對シ渡航ノ日ヨリ満十箇年間第三條第二項ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ負フ

○議長（公爵近衛篤麿君）是ハ多分御手許ニ議案ガ回ツテ居リマセウガ、此移民保護法中改正法律案ノ第七條ノ二ト云フノニ衆議院カラ修正シテ回ツテ來タノデアリマス、之ニ同意スルヤ否ヤト云フコトデアリマス

○宮本小一君 是ハモウ當議會ノ初ニ方リマシテ本院ノ議場ヲ經過致シマシテ衆議院ニ回リマシタノデゴザイマスルガ、其砌私共モ初ノ委員ニ選定サレマシテ是ハ一應議シマシタノデゴザイマス、議シマシタ其時ニハ此今度衆議院ノ方カラ回リマシタ朱書ノ通入レマシタノガ、當議場デ削ラレマシテ、ソレ

ヲ再ビ衆議院ノ方デ暗合致シマシテ復活サレマシタコトデゴザイマス、今朝以來委員ノ方トモ相談ヲ致シマシタ所ガ、誠ニ是ハ最初ヨリ加ヘマシタ意見ト同一デゴザイマス、是非此數字ガ這入りマシタ方ガ至極適當ダラウト存ジマスルコトデ、相談ヲ致シマシタ、相成ルベクハ矢張此儘衆議院ノ通ニ議決ニナルコトヲ希望致シマス、唯今岡部委員長ガ見エマセヌ、旁以チマシテ本員ヨリ此事ヲ一應辯明致シマス

○村田保君 成ル程唯今宮本君カラ此本院ニ於テ元ノ委員カラシテ此文字ヲ加ヘマシタノバ議場ニ於テは其削除ヲシタノデ、成ル程元ノ委員ノ御方ハ其儘デモ直チニ之ヲ議シテ宜イト云フ御考デゴザイマセウケレドモ、併ナガラ議場ノ多數ガ之ヲ不用ノモノトシテ消シマシタモノヲバ衆議院ガ又其委員會ノ眞似ヲシテ今度ソレヲ加ヘタノデ、サウスルト是ハ直チニ此處ニ議スルト云フノハ如何デゴザイマセウカ、ドウゾ特別委員ヲ組マレマシテ尙ホ審議シマシテ或ハ加ヘルトモ加ヘヌトモドウゾ是ハ委員ニ付セラレルコトヲ希望致シマス

○子爵平松時厚君 賛成

○議長（公爵近衛篤麿君）平松子爵ノ賛成ト云フハドレニ賛成デス

○子爵平松時厚君 委員付託ニ賛成

○議長（公爵近衛篤麿君）村田君カラ委員再付託…委員再付託デハナイ是ハ改ツテ居ルノデスカラ、之ヲ委員ニ付託スルト云フ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長（公爵近衛篤麿君）少數ト認メマス、此衆議院ノ修正ニ不同意ト云フコトニナリマスト直グニ協議會ノ委員ヲ選定スル運ビニナリマス、左様御承知ヲ願ヒマス、衆議院ノ修正ニ御同意ノ諸君ハ起立ヲ願ヒマス

○議長（公爵近衛篤麿君）過半數ト認メマス、府縣制中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

起立者 多數

○議長（公爵近衛篤麿君）過半數ト認メマス、府縣制中改正法律案、衆議院提出案及送付候也

府縣制中改正法律案

明治三十四年三月十六日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

衆議院議長片岡健吉

府縣制中左ノ通改正ス

第五條第一項中「七十萬」ヲ「五十萬」ニ「三十人」ヲ「三十五人」ニ改ム

第六條第一項中「府縣會議員ノ選舉權」ノ下ニ「及被選舉權」ヲ加フ

第六條第二項ヲ削ル

第六十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

府縣參事會ハ必要アリト認ムルトキハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ實況ヲ調査セシムルコトヲ得

第一百二十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

豫備費ノ支出ハ府縣參事會ノ議決ヲ經ヘシ

附 則

此ノ法律ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五條及第六條ノ改正ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長（公爵近衛篤麿君）是ハ終リマデ、郡制中改正法律案、市制中改正法律案、町村制中改正法律案、是ダケ併テ問題ニ供シマス

郡制中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治三十四年三月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

郡制中左ノ通改正ス

第六條第一項中「郡會議員ノ選舉權」ノ下ニ「及被選舉權」ヲ加フ

第六條第二項ヲ削ル

第五十七條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

郡參事會ハ必要アリト認ムルトキハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ實況ヲ調査セシムルコトヲ得

第九十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

豫備費ノ支出ハ郡參事會ノ議決ヲ經ヘシ

附 則

此ノ法律ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第六條ノ改正ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

右本院提出案及送付候也

市制中改正法律案

右本院提出案及送付候也

貴族院議事速記録第十四號

明治三十四年三月十九日

市制中改正法律案 第一讀會 貴族院議事速記録第一讀會 第一讀會 貴族院議事速記録第一讀會

明治三十四年三月十六日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

市制中左ノ通改正ス

東京市、京都市、大阪市ノ區ニシテ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ市會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ三級選舉ノ爲メ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ

分會ノ選舉掛ハ市長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第十八條第三項中「名簿ハ」ノ下ニ「當選者ノ數選舉ス可キ定數ニ達セサル場合又ハ」ヲ加フ

第二十二條第一項中「被選舉人」ノ下ニ「一名」ヲ加ヘ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

確定名簿ニ登錄セラレタル每級選舉人ノ數其選舉ス可キ議員ノ數ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウ可シ

第二十三條第一項中「選舉」ヲ「記載」ニ改ム

第七十五條第一項中「名譽職員」ノ上ニ「市會議員其他」ヲ加フ

附 則

此ノ法律ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

町村制中改正法律案
右本院提出案及送付候也

明治三十四年三月十六日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

町村制中左ノ通改正ス

第十八條第三項中「名簿ハ」ノ下ニ「當選者ノ數選舉ス可キ定數ニ達セサル場合又ハ」ヲ加フ

第二十二條第一項中「被選舉人」ノ下ニ「一名」ヲ加ヘ第一項ノ次ニ左ノ一項

衆議院議長片岡健吉

(ヲ加フ) 確定名簿ニ登録セラレタル每級選舉人ノ數其選舉ス可キ議員ノ數ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウ可シ

第二十三條第一項中「選舉」ヲ「記載」ニ改ム

第七十五條第一項中「名譽職員」ノ上ニ「町村會議員其他」ヲ加フ

附 則

此ノ法律ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○議長(公爵近衛篤麿君) 委員ノ選舉ニ移リマス、此四案ハ何レモ同一委員ニシテ議長ノ指名デ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤麿君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

本日松平男爵外二名ヨリ九十八名ノ賛成ヲ以テ議院法第四十八條ニ依リ官紀ニ關スル質問書ヲ提出セラレタリ

○議長(公爵近衛篤麿君) 是ヨリ特別委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

〔太田書記官長朗讀〕

漁業法案特別委員

子爵京極高典君 子爵鳥居忠文君 男爵渡邊清君

男爵石田英吉君 田中芳男君 森山茂君

馬屋原彰君 長谷川貞雄君 野崎武吉郎君

印紙稅法中改正法律案特別委員

伯爵日野資秀君 男爵郷純造君 男爵竹内惟忠君

子爵野宮定穀君 男爵杉溪言長君 森山茂君

武井守正君 色部義太夫君 坂口平兵衛君

事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案特別委員

侯爵細川護成君 子爵鍋島直彬君 男爵牧野貞寧君

子爵京極高徳君 男爵岡内重俊君 男爵岩村高俊君

柴原和君 男爵玉松真幸君 烏越貞敏君

北海道會法案外一件特別委員

公爵二條基弘君 伯爵萬里小路通房君 男爵北垣國道君

濱尾新君 男爵鈴木大亮君 西村亮吉君

湯地定基君 穂積八束君 高橋喜惣治君
屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ノ登録税免除ニ關スル法律案外一件特別委員

伯爵正親町實正君

伯爵大原重朝君

伯爵島津忠亮君

男爵中島錫胤君

男爵船越衛君

中村元雄君

男爵中御門經隆君

小幡篤次郎君

高廣次平君

北海道鐵道部支部局及派出工場現金前渡官吏設置ニ關スル法律案特別委員

子爵平松時厚君

子爵一柳末徳君

宮本小一君

男爵南光利君

松本鼎君

石井忠恭君

折田平内君

廣瀬和育君

野口駿君

明治三十三年勅令第二百七十七號承諾ヲ求ムルノ件特別委員

侯爵松平康莊君

子爵仙石政固君

子爵舟橋遂賢君

子爵松平直平君

子爵牧野忠篤君

男爵野村素介君

渡正元君

澤簡徳君

米谷半平君

府縣制中改正法律案外三件特別委員

子爵長岡護美君

子爵山内豊誠君

子爵高野宗順君

伊澤修二君

男爵辻健介君

石井省一郎君

辻新次君

井狩彌左衛門君

鎌田勝太郎君

○議長(公爵近衛篤麿君) 今日ハ散會
午前十一時十五分散會